

【十一月】お題「冬のもの」「マラソン大会」「空」

月間賞

影凍る空気が体にのしかかる今年が最後の冬の登校

三―三 三浦 明音

第二席

白い庭一番最初に飛び込んで私が絵描く雪の芸術
部活後の疲れを忘れる全身が吸い込まれるような澄んだ星空

三―二 佐々木 唯
二―二 中鉢 結貴

第三席

秋はどこ？氷のように冷える日々起きるの億劫寝ながら準備
寒い朝布団の中でモゾモゾとあれを待ってる二度寝しながら
暖色とチェックのマフラー巻きつける秋から冬へのまるでタスキだ

一―二 鈴木 璃音
一―二 千葉 心咲
二―三 赤羽根 樹

優良賞

お腹空き何かを求めてコンビニへ目移りしながら最後にはおでん
ゴーゴーと雲の中光る雷鳴と似ている母の怒り顔
空見上げ私の心と同じ色頬に落ちるは白い涙
朝起きてストーブつけて温まる学校にはまだ行きたくない
帰り道空気冷たく息を吐く手先は赤く辺りは暗く

一―一 内海 遥陽
一―二 森谷 心咲
一―二 及川 菜月
二―一 大内 馨隼
二―二 工藤 瑚々

佳作

朝寒に起きたりて見たやぶ椿開花した花卉冬を感じる
マラソンで五キロ走った十一月苦勞の先に結果がある
寒いねと朝から震える月曜日窓の奥では雪がパラパラ
雪だるまみんなで転がしでかくするそれを壊せば友情消える
白い声と赤い手を見て冬来たな実感したけどまだまだ薄着
田んぼ道無心に歩くトントんと帰路の景色は美しき空
寒い時期コタツに入ってあたたまる外から降る雪見てて寝る日々
白い息手足冷える通学路明日は着ないとあつたかコート
からからと枯葉落ちてく山の中赤黄茶緑五色霜林
空見上げ届きそうで届かない星が掴む私の心を
音もなく天から舞い散る白銀が空と戯れ無と化していく
冬の街白の光に包まれて普通の街も綺麗に変わる
星走る見上げた宙にはオリオン座白い吐息の向こうに見える

一―一 阿部 克亮
一―一 佐々木 琉奈
一―二 大山 大翔
二―一 笹川 龍斗
二―二 佐々木 悠斗
二―三 高橋 竜馬
二―三 赤間 結羽
二―三 大和田 陽
三―一 阿部 日和
三―二 佐々木陽菜
三―三 住吉 祐斗
三―三 猪股 響生